教育実践報告

児童生徒の実態調査を踏まえた『総合的な学習の時間の指導法』に関する考察

大 山 光 晴、長 岡　知

１．はじめに

「総合的な学習の時間の指導法（以下、指導法と言う）」は、2019 年度の入学生から教員養成課程における必履修科目として設定されており、本学では 2018 年度から選択科目として設置し、2021 年度から第３学年の必履修科目としている。この授業カリキュラムの概要と実践について、昨年度報告を行っている（大山、2022）。この報告では、改訂された現在の学習指導要領（文部科学省（2017、2018））が重視している探究活動をカリキュラムに取り入れていることと、学習指導要領の改訂に合わせて変更があった評価方法について、学生の受け止めの実態について論じた。現在、指導法の授業カリキュラムは各大学で様々な実践が行われている。探究的な学びを重視した実践（木村（2002））、他教科との関連を重視した実践（竹田・今野・豊澤・板橋（2022））、幾つかの学校の教育実践をもとにした報告がある（杉原・生田（2022））。

そして、受講する学生たちの学びの実態の報告（富永、2022）や学生たちの体験をもとにした取り組み（貴志（2022）、谷尻ら（2022）、八田・御舩（2022））や、学生によるフィールドワークを取り入れた実践（大西（2022））、学生が模擬授業を行う実践（渋谷（2022）、下田（2022））など、数多くの報告がある。しかし、小学校・中学校・高等学校の各学校種における総合的な学習の時間の授業の実態を調査し、その結果を踏まえて指導法の授業カリキュラムに検討を加えた報告はない。指導法のカリキュラムの内容を改善するためには、総合的な学習の時間における児童生徒の学びの実態を把握することが必要である。

そこで、大学の近隣地域の小学生、中学生、高校生に総合的な学習の時間の学びに関して、順天堂大学と秀明大学の授業担当が実態調査を行い、その調査結果を踏まえて、指導法のカリキュラムについて改善の検討を行うこととした。この報告では調査に関する記述について、「総合学習」という略称を使用している。

２．調査方法

(1)　学校調査の対象と調査方法

①　児童生徒の総合学習に対する実態調査

調査の実施期間は 2020 年 11 月から 12 月で、Ｙ市内にある公立学校から小学校、中学校の選定にあたり、地域に偏りがないようにＹ市教育委員会を通じて選定を依頼した。抽出した小学校４校の６年生 310 名、中学校４校の２年生 262 名、高等学校２校の２年生 154 名を対象に、郵送法による無記名自記方式を用いて実施した。質問項目は付録１に示すとおりである。小学校、中学校、高等学校のすべてにおいて同一の内容にて調査を実施した。質問内容は、新しい学習指導要領の目標を踏まえて２人の筆者が協議して作成し、児童・生徒が学校での「総合的な学習（探究）の時間」の学びを振り返り、6 領域（価値、感情、知識・技能、主体性、思考・判断、協働）について９項目の質問に答える形で構成した。各質問は４件法（１：思う、２：やや思う、３：あまり思わない、４：思わない）にて、それぞれの気持ちに近い番号を選ぶ回答方式とした。また、「『総合学

習』の授業を学んで身に付いたこと」について、自由記述で回答を求めた。

② 大学生の指導法受講後の調査

本学の2022年度の前期に指導法を受講した大学３年生111名を対象に、最終授業にて質問紙調査を実施した。付録２の課題４（1）（2）に示す10の項目（学習指導要領解説の内容）について、「指導法の授業で学んだこと」と、「生徒に身に付けさせたいこと」を、各項目から複数回答可で選択させた。また、課題５で総合学習の指導法として大学でどのようなことを学ぶ必要があるかについて、自由記述で回答を求めた。

(2) 分析方法

① 児童生徒の総合学習に対する実態調査

回収した調査用紙から欠損値のある回答を除き、質問紙調査の結果についてまとめ、また、自由記述の分析においてはKH - Coderを用いて検討を行った。

② 大学生への質問紙調査

大学生の自由記述についても、①と同様にKH - Coderを用いて検討を行った。

(3) 倫理的配慮

調査の実施にあたっては市教育委員会、各校長及び保護者の同意を得て行われた。また、研究の趣旨、研究への参加は自由意志に基づくものであり強制ではないこと、調査票は無記名であり個人が特定されないこと、得られた情報は研究以外の目的で用いないこと、成績評価には関係しないこと等を口頭および文書にて説明した。本調査は順天堂大学研究倫理委員会の承認を得て実施された。（順大ス倫第2020 - 18号　2020年10月24日）

３．調査結果

Ｙ市内の公立学校から抽出された小学校４校の６年生263名（回収率84.8%）、中学校４校の２年生253名（回収率96.6％）、高等学校２校の２年生154名（回収率100.0%）から調査票を回収した。全体回収率は92.3%であった。得られた調査票から欠損値のあった児童生徒11名を除く、合計659名（有効回答率98.4%）の有効回答をもとに分析を行った。また、各学校種の有効回答のうち「『総合学習』の授業を学んで身に付いたこと」の記述がある回答の数は、小学生217名（83.1%）、中学生225名（89.3%）、高校生58名（38.4%）であった。

(1) 児童生徒の調査結果

表１は各項目で児童生徒が選択した回答１～４の人数をまとめたものであり、図１は各項目の回答１～４の割合をグラフで表したものである。回答１と２を合わせた肯定的な回答の割合は、小学生で83.2%～94.9%、中学生で80.7%～94.0%と高く、ほとんどの項目で小学生の割合が中学生よりやや高いが、項目９（協働）のみ中学生の割合が小学生よりも高くなっている。高校生は57.5%～78.4%と全ての項目において割合が低くなっている。 小学生の肯定的な回答の割合が他と比較して低い項目は、４（感情）と６（知識・技能）であった。中学生の肯定的な回答の割合が低い項目は６である。一方、高校生では項目１と２（価値）、９以外の項目の肯定的な回答の割合が低く、70%を大きく下回っている。

校種ごとの記述内容の頻出語を表２に、共起ネットワーク図を図２、図３、図４に示す。小学生は「SDGs」「パワーポイント」「発表」、中学生は「協力」「仲間」「社会」「世界」という名詞が、他の校種には多くない特徴的な語句として出現している。高校生は「進路」という名詞が、出現数が他の約２倍という最も特徴的な語句であった。

(2) 大学生の調査結果

大学生が指導法の授業で身に付けるべきだと考える記述内容の共起ネットワークを図５に示す。回答数は

115 名である。児童生徒の結果と同様に、「学ぶ」「考える」「思う」という言葉が頻出している。これらの語句と「総合的な学習の時間」「評価」「方法」「授業」という語句に強い共起性が現れている。

また、学生の具体的な記述例としては、「児童生徒が自分の将来に生かすことを学ぶことが必要であると考える。」「そもそも『総学』の授業が何を行うべきなのか、学ぶ必要がある。」「児童生徒にどんなことを獲得してもらいたいかを明確にさせることの大切さを学ぶ必要がある。」「生徒にどのようなことを学ばせたいのか、具体的に考える力が必要である。」などがあった。

表１　総合的な学習（探究）の時間に対する振り返り授業評価

（小学校n=257、中学校n=249、高等学校n=153）

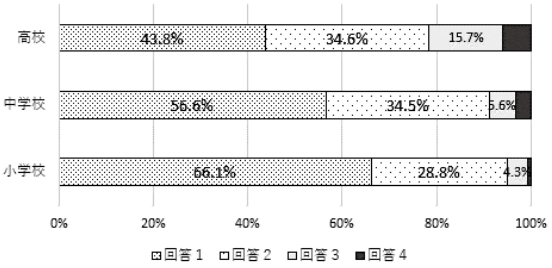
「１：思う　２：やや思う　３：あまり思わない　４：思わない」

質問項目		校種	回答１	回答２	回答３	回答４
価値	１．総合学習は大切だと思う。	小学校	170	74	11	2
		中学校	141	86	14	8
		高校	67	53	24	9
	２．総合学習は必要だ。	小学校	156	85	14	2
		中学校	124	101	19	5
		高校	64	54	25	10
感情	３．総合学習は楽しい。	小学校	158	68	22	9
		中学校	120	97	24	8
		高校	44	55	35	19
	４．総合学習を好きだ。	小学校	137	81	26	13
		中学校	104	105	32	8
		高校	45	50	39	19
知識技能	５．総合学習で知識が深まった。	小学校	135	98	21	3
		中学校	116	101	26	6
		高校	49	54	37	13
	６．総合学習で様々な技能（スキル）が身についた。	小学校	106	108	38	6
		中学校	83	118	41	7
		高校	30	58	46	19
主体性	７．総合学習に自ら進んで取組めた。	小学校	127	96	24	10
		中学校	93	117	34	5
		高校	43	60	34	16
思考判断	８．総合学習では考えたり、工夫することができた。	小学校	142	85	23	7
		中学校	111	104	26	8
		高校	38	70	34	11
協働	９．総合学習では仲間と一緒に取組めた。	小学校	174	57	16	10
		中学校	179	55	9	6
		高校	56	58	26	13

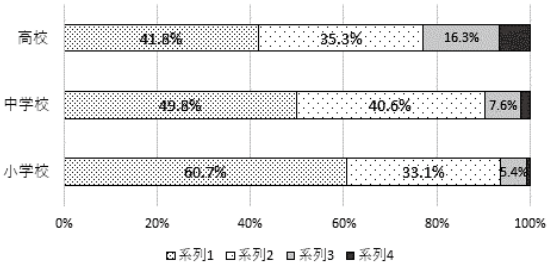
表２　各学校種の語句出現回数（上位 10 語）

学校種	小学生		中学生		高校生	
	名詞	動詞	名詞	動詞	名詞	動詞
1	身(42)	する(84)	人(59)	する(118)	進路(13)	考える(16)
2	力(38)	つく(48)	協力(56)	できる(55)	自分(7)	する(14)
3	自分(36)	できる(47)	自分(44)	知る(35)	身(6)	できる(6)
4	SDGs(30)	調べる(41)	仲間(39)	学ぶ(33)	知識(5)	なる(6)
5	ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄ(23)	知る(41)	身(30)	考える(32)	総合学習(5)	付く(6)
6	総合学習(22)	分かる(37)	SDGs(24)	分かる(31)	協力(5)	学ぶ(6)
7	知識(21)	考える(35)	力(24)	なる(30)	力(4)	分かる(5)
8	発表(20)	まとめる(31)	社会(22)	付く(27)	仲間(4)	やる(3)
9	人(18)	なる(30)	世界(22)	思う(25)	授業(3)	言う(2)
10	パソコン(14)	思う(21)	行動(16)	調べる(10)	他人(3)	生きる(2)

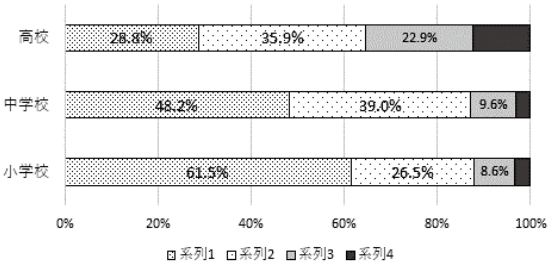
1.　総合学習は大切だと思う



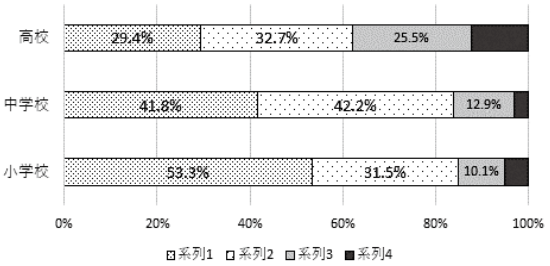
2.　総合学習は必要だ



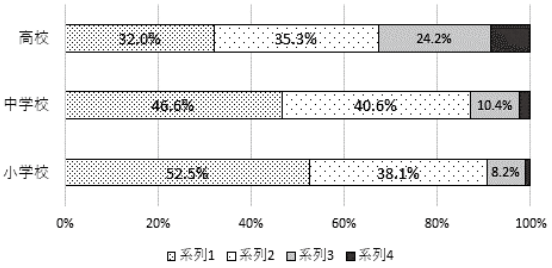
3.　総合学習は楽しい



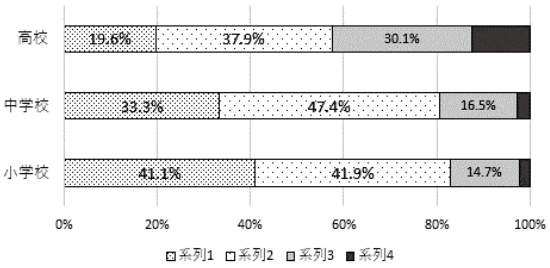
4.　総合学習を好きだ



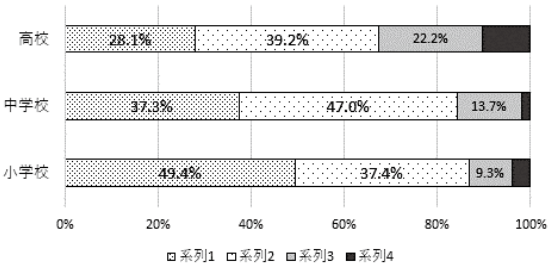
5.　総合学習で知識が深まった



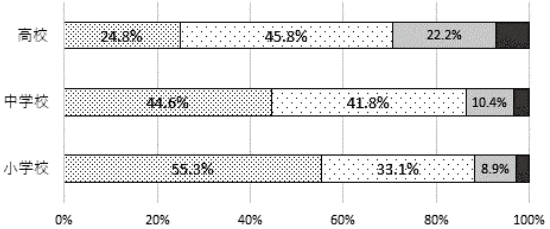
6.　総合学習で様々な技能が身に付いた



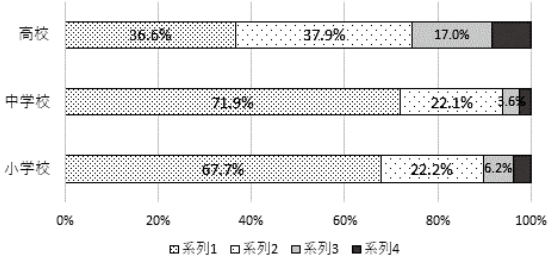
7.　総合学習に自ら進んで取り組めた



8.　総合学習では考えたり、工夫することができた



9.　総合学習では仲間と一緒に取り組めた



※　□ 回答１　思う
□ 回答２　やや思う
□ 回答３　あまり思わない
■ 回答４　思わない

図１　総合的な学習（探究）の時間の学びの振り返り

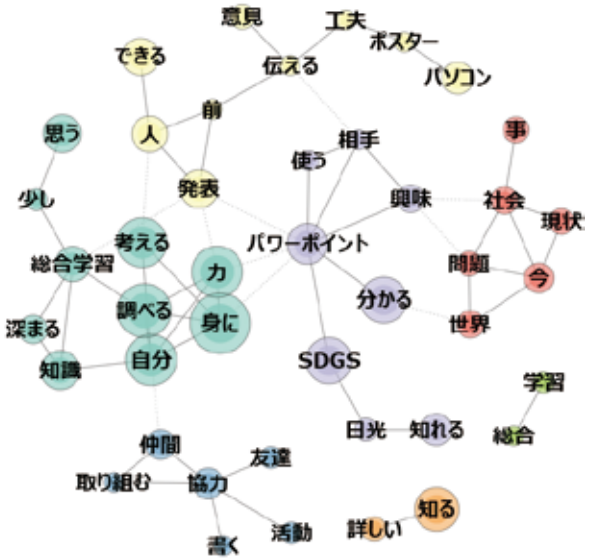


図２　小学生の共起ネットワーク（n=217/259）

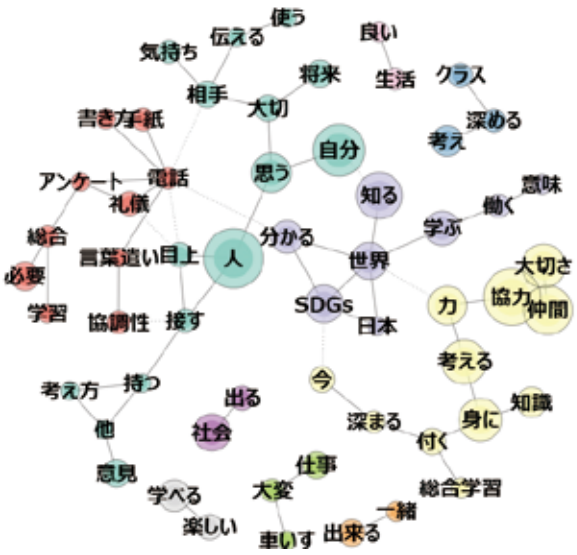


図３　中学生の共起ネットワーク（n=225/249）

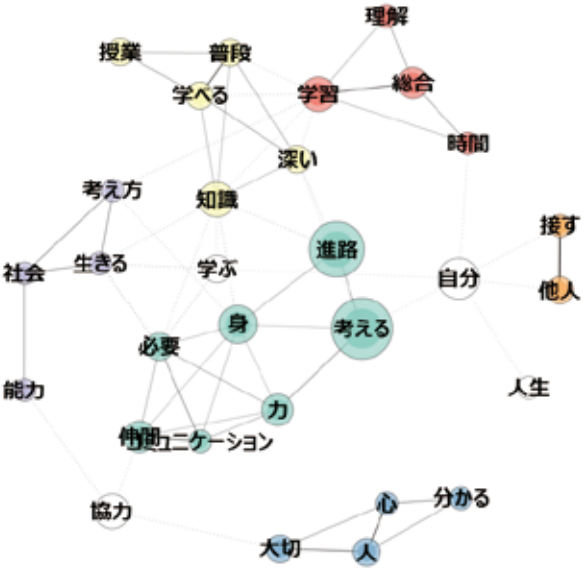


図４　高校生の共起ネットワーク（n=58/154）

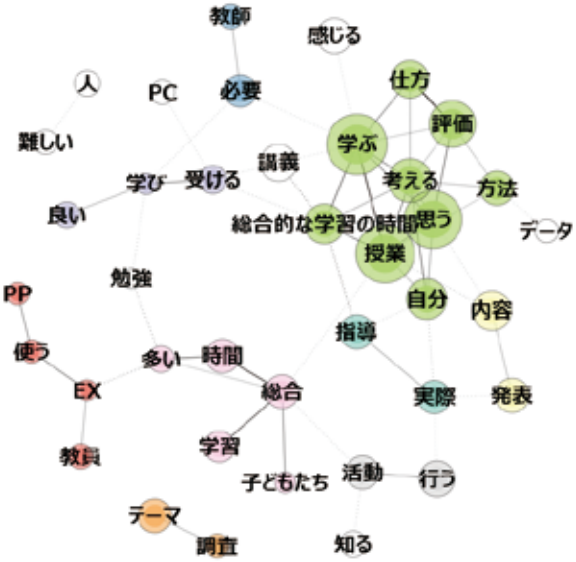


図５　受講学生の記述内容の共起ネットワーク(n=115)

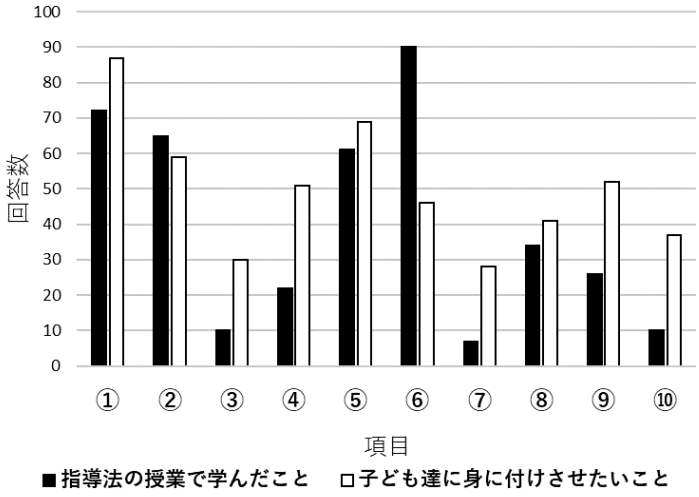


図６　指導法の受講学生の調査結果
（n=111　複数回答可）

４．考察

小・中学生の肯定的な回答の割合が高いことは、総合学習の活動内容と強く結びついていると考えられる。小・中学生の両方の頻出語句にSDGsが入っているのは、Ｙ市教育委員会が小・中学校の総合学習でESDとSDGsの取り組みを推奨していることが大きな理由と考えられ、小・中学校では関連する総合学習のカリキュラムがよく整備されていることが推察できる。

項目９（協働）において小学生よりも中学生の方が肯定的な受け止めの割合が高いことについて、共起ネットワークの図３において、仲間との協力や自分と人（他人）との関係につながる語句に強い共起性を見ることができる。このことから、中学校における総合学習では、職場体験など学校外の人と連携をとることや、グループ活動が積極的に行われていることが推察される。

その一方で高校生の肯定的な回答が全体に低く、記述回答の割合も小・中の４割程度であったことについては、様々な原因が考えられる。

例えば「進路」という言葉が記述に多く見られることに関して、高等学校の総合学習のねらいにも「自己の在り方生き方を考えることができるようにする」とあることから、高等学校では大学や専門学校の関係者による説明会など、「進路」に関する多くの取り組みが実践されている結果と考えられる。この一方で、卒業後の進路を扱う時間が、総合学習の時間の他にも、学校行事やロングホームルームの時間など数多く設定されている。このため、総合学習の学びの印象が弱まってしまったことが理由の一つとして考えられる。小・中学校のように、それぞれの時間の役割が区別されておらず、進路以外の他の学習テーマが明確に設定されていないことも推察される。

各学校種で共通して肯定的な回答の割合が低かったのは項目６の「技能（スキル）の習得」であるが、小・中学校の回答結果には少し検討が必要であると考えられる。表２には「調べる」「まとめる」「パワーポイント」「パソコン」という語があり、図３には「電話」や「手紙」などの語が他の複数の語とつながっていることから、小・中学校ではスキル向上につながる活動が行われていることがわかる。小・中学生の調査では、子供たちが総合学習の時間に行った活動と、アンケート用紙の項目の「技能」という言葉が結び付いていなかった可能性があり、教員への調査などが必要であろう。

高等学校に関しては、項目６の肯定的な回答が57.5%と他の項目と比べても著しく低く、表２と図４にもスキルに関する語句はほとんど登場していない。進路を考えさせる活動内容であっても、自分自身の適性や将来について、総合学習の目的に合った、生徒に主体的な活動を促す教材の開発が必要であろう。高等学校では、選択科目が多く、教科別の研究室などが教員の居室になっていること等の影響もあって、教科横断的な取り組みを行うことが難しいが、様々な情報を活用しながら自ら問いを見出したり、活用していく中でその重要性に気付いてスキルを身に付けていくなど､高校生に合ったスキルの習得を目指すことも重要であると考えられる。また、進路に限定しない、卒業後の生徒の生活につながる様々な内容を含むカリキュラムを構築することも求められる。

大学生の調査で「指導法の授業で学んだこと」への回答数が最も多かった⑥（情報の集め方・調べ方やまとめ方）は、指導法の授業で、具体的な演習を８回の授業（情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）で行っていることの成果が表れているといえ、児童生徒への調査において共通して肯定的な回答数が最も低い割合である「技能の習得」に関する授業実践力の育成につながると考えられる。回答数が少なかった③（社会体験と通じた勤労観・職業観・社会観）と⑦（地域社会や保護者との交流を通じての社会的マナー）は、図３に示されている通り、職場体験等が中学校で行われているが、大学の授業の中で扱ってこなかった項目である。地域の

中学校の職場体験における指導の実際や企業との連携活動の実践事例を紹介するなど、学生に学校現場における項目③と⑦に関係した授業の様子を紹介できる教材等を作成する対応が考えられる。

そして、調査結果と授業のカリキュラムをＹ市内の学校及びＹ市教育委員会と共有して、指導法の授業改善だけでなく、地域の総合学習の授業改善についても、今後連携していく方策を考えることも重要である。

５．おわりに

児童生徒への実態調査によって、本学で開発してきた指導法のカリキュラムは、様々な技能（スキル）の習得など、総合学習のための授業実践力の育成に資する内容がある一方で、キャリア教育などに関する内容が不足していることを明らかにすることができた。また、受講している大学生への調査からも、いくつかの成果と課題が明らかとなった。

今回の検討結果を踏まえて、今後は、指導法のカリキュラムについて、不足していた部分を補い、学校現場の実態に即しながらその改善に資することができるような内容に近づけ、学生の授業実践力の育成に効果的で実効性のあるカリキュラムの開発を進めていくことが望まれる。

［参考文献］

・文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編」
・文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編」
・文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説総合的な探究の時間編」
・大山光晴（2022）『総合的な学習の時間の指導法』における探究と評価の実践、秀明大学研究紀要、第19号、p.1-9
・富永弥生（2022）「総合的な学習の時間」に関する教員養成課程の学生の学びについて」常葉大学教育学部紀要、第 42 巻、p.69-76
・木村勝美（2022）「教職課程における総合的な学習の時間の学習・指導の在り方」崇城大学紀要、第 47 巻、79-96
・貴志年秀（2022）「教職新科目「総合的な学習の時間の指導法」の実践（2）：受講者の体験をもとにした教材化を通して」和歌山大学教職大学院紀要 学校教育実践研究、第 6 巻、p.33-40
・谷尻　治，貴志年秀，梶村麻紀子，古賀庸憲（2022）「教職新科目「総合的な学習の時間の指導法」の実践（1）：授業内容と学生アンケートから」和歌山大学教職大学院紀要 学校教育実践研究 第 6 巻、p. 21-31
・下田好行（2022）「総合的な学習の時間の指導法における教育内容・方法の開発 ―SDGs と ICT を活用する模擬授業を通して―」明治大学教職課程年報、第 44 巻、p. 83-92
・八田 学 , 御舩斎紀（2022）「総合的な学習の時間の有効な活用のために：―学生の体験談から考える総合的な学習の時間の在り方―」、鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要、第 85 巻、p.73-79
・渋谷修造（2022）「探究心を引き出す総合的な学習の時間の指導法」、千葉経済論叢、第 66 巻、p.247-254
・杉原真晃 , 生田清人（2022）「総合的な学習の時間」とその指導法に関する 教育実践報告をもとにした教授学的考察」聖心女子大学論叢、第 139 巻、p.63-112
・竹田幸正 , 今野孝一 , 豊澤弘伸 , 板橋夏樹（2022）「総合的な学習の時間の指導法」に関する一考察、宮城学院女子大学発達科学研究 、第 22 巻、p.89-102
・大西慎也（2022）「教職科目「総合的な学習の時間の指導法」の 在り方に関する一考察」京都ノートルダム女子大学研究紀要、第 52 巻、p.45-56

【付録１】　「総合的な学習（探究）の時間」に関するアンケート（対象：児童生徒）

学校での「総合的な学習（探究）の時間」（以下，総合学習と言います）の学習を振り返り，次の質問についてお答えください．このアンケートから得られた結果は今後の授業改善に活用させていただきます．答えた内容が成績等に影響することはありませんので，あなたの率直なご意見をお聞かせください．

問１　　１．小学６年生　　２．中学２年生　　３．高校２年生

問２　今までの「総合学習」の学びについて振り返り，あなたのお気持ちに近い番号を選んで〇印をつけてください．　　【１：思う　２：やや思う　３：あまり思わない　４：思わない】

１．総合学習は大切だと思う．	１　・　２　・　３　・　４
２．総合学習は必要だ．	１　・　２　・　３　・　４
３．総合学習は楽しい．	１　・　２　・　３　・　４
４．総合学習を好きだ．	１　・　２　・　３　・　４
５．総合学習で知識が深まった．	１　・　２　・　３　・　４
６．総合学習で様々な技能（スキル）が身に付いた．	１　・　２　・　３　・　４
７．総合学習に自ら進んで取組めた．	１　・　２　・　３　・　４
８．総合学習では考えたり，工夫することができた．	１　・　２　・　３　・　４
９．総合学習では仲間と一緒に取組めた．	１　・　２　・　３　・　４

問３　あなたは「総合学習」の授業を学んで，どのようなことが身に付きましたか．ご自由に書いてください．

【付録２】　『総合的な学習の時間指導論　ワークシート(15)』より一部抜粋

［課題４］　授業『総合的な学習の時間指導論』を振り返って

(1) この授業で，総合的な学習の時間の指導について，何を学ぶことができましたか．

複数回答可：番号の前に〇をつけたり，番号をハイライトにしたりしてください．

① 自ら学び考え，主体的に判断する問題解決能力
② 報告・討論，発表の仕方などのコミュニケーション能力
③ 社会体験と通じた勤労観・職業観・社会観
④ 友達と一緒に活動をするなかでの社会性や協調性
⑤ 問題解決に主体的・創造的に取組む態度
⑥ 情報の集め方・調べ方やまとめ方
⑦ 地域社会や保護者との交流を通じての社会的マナー
⑧ 各教科などで身に付けた知識や技能の総合化
⑨ 社会の変化に対応できる総合的な力
⑩ 生き方についての自覚や進路展望
⑪ その他（　　）

(2)　みなさんが教師になったときに，「総合的な学習(探究)の時間」で児童生徒に身に付けさせたい資質・能力はどのようなものですか．　(1)の①～⑪の中から３つ選んでください．

［課題５］「総合的な学習の時間の指導論」として，大学でどのような事を学ぶことが必要であると考えますか．